

プログラム名 (40字以内)	ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカを学び楽しみ考える～		
団体名/所属	本学学生(活動指導職員:坂田一郎教授研究室 村田幸優 学術専門職員)		
活動区分	フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	先着順
募集人数	8人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	特になし		
活動期間	2024/9/11(水)～9/20(金)、 現地8泊9日	主な活動予定場所	ケニア(ナイロビ、キスム、ロイトキトクなど)
プログラム実施の目的	<p>大きな発展と経済成長を遂げる最後のフロンティアと言われるアフリカ大陸。人口の平均年齢19歳であり若い世代の秘める能力を充分活かす必要がありますが、様々な分野において経済成長を遂げた先進国の経済的・技術的協力も要します。このような状況下、先進国日本で教育を受け成長する若者がアフリカを知りアフリカのポテンシャルを体験し、自分の将来にアフリカをどのように位置付け、関わり、協力し、成長しあえるかをケニアでの現地体験を通じて考える機会を持つことが目的です。</p>		
具体的な内容(800字程度)	<p>ケニアには、机上の議論を超えて実際に現場に行ってみないとわからない現実があります。そんなありのままのケニアを見て体験して考える機会を提供します。</p> <p>スタディーツアーを企画し現地で案内してくれるのは、柏原ルミコさんという方です。ケニア・在マウイ日本国大使館の草の根委員などを経験されており、ケニアに住んで12年になります。「アフリカに行ってみてほしい！ただどうやっていけば良いかわからない。」という方が最初の一步を踏み出すきっかけになればと思います。</p> <p>ビジネス、文化歴史、国際協力、自然など様々な観点から、ケニアを掘り下げていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ケニアの現地で活動するNGOや現地の団体を訪問し、地域の課題の現状および団体の取り組みを体験し考える。 ケニアの主要産業の一部(主に農業・観光業など)や、過去に実施された日本の経済協力・地域開発プロジェクトを訪問する。 サファリへの訪問を通して、アフリカに生息する豊富な野生動物の美しさや彼らの生きる知恵を学びながら環境保護などについて考える。 多様な民族を知り、それぞれの文化や伝統・慣習を学び、人間の多様性を学び、尊重の重要性について考える。 ケニアのもつポテンシャルを体験し、将来的な自分の活動や取り組みについて考える。 ケニアの歴史的な大地の育みや人間の歴史などを見て知って考える。 また、参加学生の興味に応じて訪問先を調整することも可能です。 <p>ケニアはアフリカの中では比較的治安の良い国ですが、それでも自力で渡航する際は多くの危険が伴います。現場のことを知り尽くした人の案内のもとで、現地のセキュリティもツアーに同行するので、現場感と安全性の両方が担保されたスタディーツアーになっています。</p> <p>ナイロビの中でも危険レベル2の地域(スラムがある場所)は目的地に入れていません。 ナイロビで宿泊する際も、レベル1で治安の良い場所を選んでおります。</p>		
【総額】参加するための費用	2,500米ドル程度		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	310米ドル(8泊)		
【内訳】参加するための費用(交通費)	340米ドル(ケニア国内の移動)+1,200米ドル程度(ケニアまでの渡航費)		
【内訳】参加するための費用(その他)	200米ドル(サファリその他観光)+250米ドル(運転手、セキュリティ、コンダクターなどの要員費)+200米ドル程度(食費やお土産代、個人差あり)		
奨励金額(予定)	80,000円		
備考	<p>日本からの往復航空券は早い時期に予約すると安く済みます。早ければ15万円程度、直前になると20万円程度になることが多いです。</p> <p>マラリアや黄熱病、狂犬病など、感染症に気をつける必要があります。ケニアの場合予防接種は義務ではありませんが、打っておくと安心です。その場合、また別途で費用がかかることになります。</p> <p>質問などがあれば、以下の二人のいずれかに気軽にいつでもご相談ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> プラウト アルヴィン(東京大学工学部3年・alypaet@gmail.com):2023年にケニア渡航経験あり、学生窓口 柏原ルミコ(rumiko.kashihara125@mail.com):ツアーの企画・主催 <p><安全対策> Cyrusさんというケニア人の現地の方が常に同行して下さります。加えて、こちらで雇ったケニア人の運転手の方が車を運転していただき、移動は基本的に全てdoor to doorとなります。</p> <p>日本人の集団は現地でも自立しますので、公共交通機関などを使わないことで、不要なトラブルを避ける狙いがあります。</p> <p>加えて、安全を期するためにセキュリティとして警官も一人雇い、同行していただくことも検討しています。</p>		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	https://drive.google.com/file/d/1PI2VLck23tC5NpFGQsQlZAzOHBVhgFEG/view?usp=sharing		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)この企画に対する担当者(応募団体の参加の有無)	参加しない		